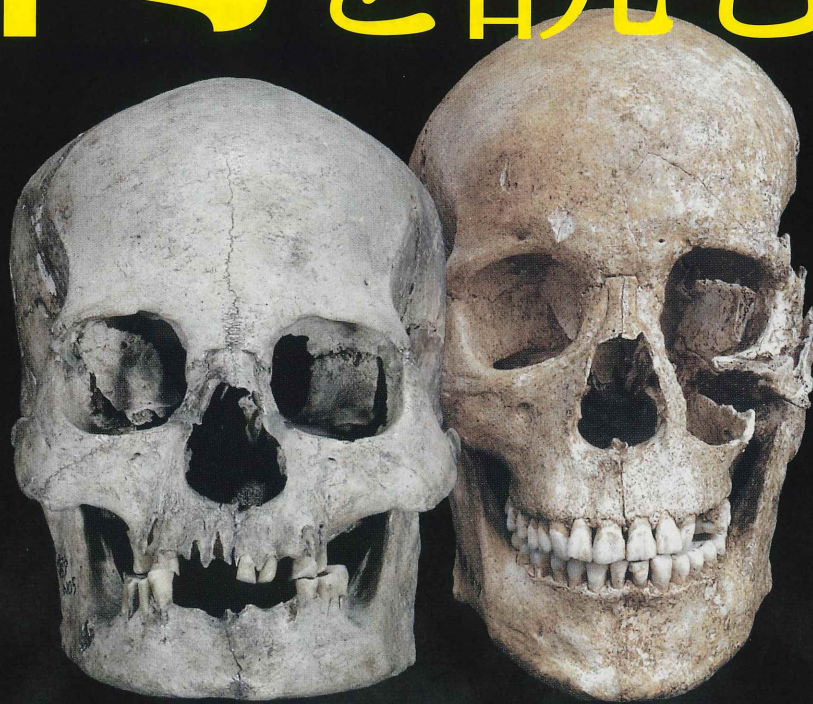


骨を読む

奥松島縄文村講演会
縄文人と古代人の



2024年
9月8日(日)

東松島市コミュニティセンター
宮城県東松島市矢本字大溜 1-1

13:00～16:00
(開場 12:30) **入場無料**

『骨のDNAからルーツを探る』
安達 登(山梨大学 教授)

『骨のコラーゲンから食生活を探る』
米田 穰(東京大学総合研究博物館 教授)



骨を読む

奥松島縄文村講演会
縄文人と古代人の

古人骨は、酸性土壌の多い日本の遺跡から見つかることは珍しく、遺跡を残した人々について語られることはほとんどありません。そのため、遺跡から発掘されるさまざまな遺物を調べて当時の人々の暮らしや歴史を明らかにする「考古学」の世界でも、稀にしか見つからない人骨は特殊なものとして扱われてきました。そんな中、里浜貝塚からは大正年間以降多くの縄文人骨が発掘され、全国的に注目されるとともに、戦前から古人骨研究において大きな役割を果たしてきました。また、矢本横穴からは、赤井官衙（牡鹿柵または牡鹿郡家）に関わる官人およびその一族とみられる多くの古代人骨が見つっています。中央国家による蝦夷政策の実態を知るうえで重要な資料です。

これらの人骨については、おもに人類学的な視点で観察と計測による分析がおこなわれ、顔やからだの特徴、性別・年齢・身長、骨に残る生業や生活の痕跡などが明らかになりました。一方、近年の理化学的な分析方法の進歩は目まぐるしく、古人骨の系統や血縁関係（古DNA解析）、多様な食生活の実態（骨コラーゲン同位体分析）、高精度の年代推定（放射性炭素年代測定）など飛躍的に多くの情報が得られるようになってきました。

今回の講演会では、里浜貝塚と矢本横穴から出土した人骨の最新の研究成果を紹介します。理化学的な手法で分析した結果をもとに、「7千年前の宮戸島に住み着いた里浜縄文人のルーツは？」「里浜の縄文人は魚介類ばかり食べてたの？」「古代蝦夷政策で重要な役割を果たした赤井官衙の官人はどんな人々？」「赤井官衙の人々の食生活は？」等等、人骨から東松島の縄文人と古代人を読み解きます。

【会場】 東松島市コミュニティセンター（宮城県東松島市矢本字大溜 1-1）

【日程】 2024年9月8日（日）

13:00	開会挨拶	志小田美弘 東松島市教育長
13:05～13:20	趣旨説明『里浜貝塚と矢本横穴出土の人骨』	菅原 弘樹 奥松島縄文村歴史資料館文化財専門官
13:20～14:30	講演Ⅰ『骨のDNAからルーツを探る』	安達 登氏 山梨大学教授
14:30～14:40	休憩	
14:40～15:50	講演Ⅱ『骨のコラーゲンから食生活を探る』	米田 穰氏 東京大学総合研究博物館教授
15:50	閉会	

【講師紹介】



安達 登（あだち・のぼる）氏

山梨大学医学部法医学講座 教授。博士（医学）、医師。

法医学の視点で古人骨を死後数百年～数千年以上経過した白骨死体ととらえ、ミトコンドリアDNA解析等を用いた古人骨の系統・血縁推定をおこなうことを専門としている。主な著書に、『灰塚山古墳の研究』（共著、雄山閣）、『法医学（改訂4版）』（共著、南山堂）などがある。



米田 穰（よねだ・みのる）氏

東京大学・総合研究博物館 教授。博士（理学）。

2019年濱田青陵賞受賞。遺跡から出土する骨や土器のオコゲを分析して、昔の人々の暮らしぶりを調べたり、年代を測定したりする考古学が専門。最近では考古学を科学的に研究する方法を考えながら、太古の人々の考え方（意図）の復元に挑戦している。

主な著書に『人間の本質にせまる科学』（共編著、東京大学出版会）、『縄文時代を解き明かす』（共著、岩波ジュニア新書）、『日本史の現在1 考古』（共著、山川出版社）、『何が歴史を動かしたのか2 弥生文化と世界の考古学』（共著、雄山閣）などがある。